



志度高だより 一飛翔の窓一

第104号
(H22.8.10)

「炙られる」

夏休みだから中途になっている長い作品を仕上げようとしていたのに、この暑さで創作意欲も減退。パソコンに向かう気力さえ失せてしまった。言い訳だが、こう暑くては脳味噌がゆだって言葉も出ない。とは言うものの、まったく文章を書かないのもどうかと思い、夏休みは休みにするはずの「志度高だより」でも書こうかな、と重い腰を上げてキーボードを叩き始めた。

これはもう炙る暑さだ。部屋の内外を問わず、あらゆるものが炙られている。表を炙られ、裏を炙られる。ステーキでいうと、ウエルダン(well-done)だ。特に木陰のないアスファルトの上は強烈だ。フライパンの中にいるに等しい。我が家の年金犬は、肉球が火傷する、死ぬ一、と決して日中には腰を上げない。犬だけでなく、この暑さは人間にもきつい。特に年寄りには。多くの老人が熱中症で落命している。

しかし、子供の頃ってこんなに暑かったかな。歯に汗かくような暑さもあったと思うが、それでも今時の暑さとは違うような気がする。温暖化現象のためか、今の暑さは「暑い」ではなく「熱い」である。朝起きたら、地中のミミズまで地面に出てきて、今度は太陽に炙られて日干しになっていた。昔は暑さしのぎに、打ち水をしたり窓辺に風鈴なんかを吊した。床机に腰を下ろし、蚊取り線香の煙に巻かれながら、団扇をパタパタやってほてった体を冷やしたものである。団扇であおいでも、まあなんとか暑さを蹴散らすことはできた。

それから少し気温が上がり、扇風機の登場となった。ところが今はもう扇風機ではどうしようもない。ときどき冷蔵庫の冷凍庫に入りたいと思うことがある。冷凍マグロのように白く凍って、白い冷気を立てても構わないと思うことがある。ありませんか？

こう暑いと、冬がいいな、なんて考える。そして実際冬が来たら、やっぱり夏の方がいいや、となる。人間の我が儘には困り果てる。限度がない。まあ所詮は勝手な生き物だから仕方ないのだが……。昨今の暑さは理性をも狂わせる。

話はころころ変わるが、夏バテ防止に何がいいかっていう話、興味ありませんか。返答はどうであれ、一つ二つエピソードなど書き散らすことをお許してください。

まず、必要以上に水分を取らないこと。取りすぎると、胃酸が薄まって食欲減退につながる。私は、もしかして夏バテ？、と思ったら、麻婆豆腐を食べることにしている。唐辛子をギンギン(赤々)にきかせて、その上食べる前にラー油をタラタラとやる。これで出来上がり。舌が焼けるくらい辛い麻婆豆腐を食べると、ゆるんだ体がしゃきっとして、夏を快適に乗り切れるのだ。難点は、辛いので少々ビールを飲み過ぎること。飲み過ぎて胃酸が薄まって、ほんでもって食欲不振。これはあり得る。何事もほどほどが肝心なんですぞ、みなさん。

次はウナギと思うでしょう。ところが違うんです。土用のウナギは、あれは源内さんが考えたこと。天才・奇才の源内さんの言うとおりの、確かにウナギは夏バテ防止になる。しかし、私はどうせならウナギよりも熱帯魚を勧める。熱帯魚は、その名のとおり暑さに強い。だから土用には熱帯魚。水槽に泳いでいるエンゼルフィッシュなんかを丸呑みする。みなさん信用してないですね。

話が逸れたが、夏バテ防止にはスッポン鍋。医者をしている友達に誘われて、スッポン料理を食べに行ったことがある。懐具合の淋しい私なんぞは、日頃スッポンなんかにはありつけることはない。そこで貧乏根性丸出しで、もうそれはそれは腹が裂けるくらいスッポンを食べた。すると翌日どうだ。効果てきめんで、体が異様に燃えていた。柔道場で生徒を相手に暴れに暴れた。スッポンはすごい、とそのとき本気で思ったのである。しかし、二日後に熱が出た。「おい、これは効くぞ」と言われてスッポンの生き血を飲んだのがいけなかった。ジマシンだらけの全身は火山のように燃え、息も絶え絶えになって数日間寝込んだ。暑さでは夏に勝ったのだが……。

暦の上ではもう立秋。それでもまだまだ残暑厳しき折、くれぐれもご自愛のほどを。

